**第３回福澤諭吉杯争奪全国学生辯論大会　趣意書**

　昨今、現代における演説の意義についての議論がきかれます。この議論が起こる背景の１つには我々が属する学生弁論界のもつ閉鎖的な態度が、少なからず影響しているのではないでしょうか。その殻を破るための試みの場として、また学生弁論界の更なる発展を目指すための場として、本大会は３つの目的をもち、それぞれに対応した取り組みを行っています。

　はじめに「より一般に開かれた大会とすること」であります。学生弁論界は些か特殊な空間であり、一般の方には馴染みの薄い場所になってはいないでしょうか。本大会ではより多くの方々に実際に弁論をみていただきその空間に加わっていただくためにも、広報活動に積極的に取り組んでおります。またUstreamでの配信を通じて、当日ご来場いただけなかった方々にも広く弁論を知っていただくための取り組みを実践しております。

　そして「より弁士が説得活動を追求できる場を提供すること」であります。本大会では、聴衆との直接のやりとりである質疑応答の後、野次を禁止とする自由時間を設けることで、弁士の説得のあり方に幅をもたせました。弁士が自身の説得活動について再考し深める機会となることを期待します。

　最後に「下級生により質の高い弁論をみせること」にあります。本大会は出場制限を設けております。経験の浅い下級生に、より質の高い弁論をみせることは、後進の育成ひいては学生弁論界の更なる発展に寄与するものと確信しております。先進は自身らが今まで学んだことを、演壇に立つ自らを通じて、示し伝えていく責務があるのです。殊、学生主体で大会が運営されている学生弁論界の現状を鑑みれば、この観点はきわめて重要であります。

　本大会が弁士及び聴衆の自己研鑽、そして学生弁論界の更なる発展に資するものとなることを切に願います。

第３回福澤諭吉杯争奪全国学生辯論大会　実行委員長

慶應義塾大学辯論部藤沢会　幹事長

　伊藤智啓